

平成13年度文部科学省研究開発学校運営指導委員会報告

第1回運営指導委員会報告

平成13年6月20日(水)10時30分～12時30分

於附属学校第一会議室

参加者 安彦忠彦教育学部長 速水敏彦附属学校長

田畑治教授 榊達雄教授

的場正美教授 早川操教授 大谷尚教授

吉田俊和教授 植田健男教授

(以上教育学部)

理学研究科池内了教授

文学部若尾祐司教授(以上名古屋大学)

愛知教育大学坂柳恒夫教授(以上他大学)

丸山豊運営委員長 矢木修

斉藤真子(運営委員) 山田孝研究部長

中村明彦 石川久美 佐藤俊樹

今村敦司(研究部) 川田基生

三小田博昭(研究委員)

福谷敏(教務部長) 丹下容子(進路部長)

向井廣(附属学校事務掛長)

1. 学部長挨拶

2. 学校長挨拶

3. 運営指導委員及び本校関係者紹介

4. 研究部長より研究開発2年次の概要について

・ソーシャルライフについて

中学二年生については、吉田研究室と協力して年間10時間実施している。

中学一年生は、担任団でソーシャルライフの授業を行っている。

・選択プロジェクト

中学二年生・三年生の異年齢による選択授業を展開

・基礎基本の充実

中学二年生・三年生において、少人数による英語、数学の授業を実施。基礎基本の力の充実に力を入れている。

・新教科群を新たに実施

新教科として高校一年生で、前期に「自然と科学」を取り組んでいる。後期は、「心と体の科学」を保健体育センターの山本先生と共同で取り組む予定。

5. 各取り組みを担当者より報告

・ソーシャルライフ

中学一年生

今年は、担任団で行っている。

①記者会見ゲーム

②記憶のあいまい

③ものの見方(毎日見ているもののあいまいさ)

④人の行動やできごと

⑤かたよった情報・かたよった視点

中学二年生

①人にどれだけ影響をあたえるか?

②影響をあたえた人がどう思うか?

NHKの番組「クローズアップ現代」の取材を受ける。6月26日(火)に放送されることが報告される。

・選択プロジェクト

9教科、10講座で半期ごとに選択する、異年齢の少人数による選択授業を実施中。

・新教科群

1-2-2-1制の後半の2の部分で、高校一年生と二年生で行う。半期に1講座、2年で4講座受講できる。教科の専門性を生かしながらTTにより授業を行う。総合人間科での成果を取り入れながら、通常の教科の授業では取り扱えない内容を扱う。

前期は、「自然と科学」。社会の山田、化学の石川、数学の渡辺が担当。1クラスを希望により3つのテーマ(担当教官)より一つ選んで少人数(12～16名程度)で授業を行う。

今のところ、生徒の感想は「楽しい」というものが多い。

後期は、「心と身体の科学」を開講。保健体育センターの山本先生に協力していただく。中等教育研究協議会では公開授業を行う予定。

6. 研究開発学校連絡協議会報告

丸山豊運営委員長 矢木修 齊藤真子
(運営委員) 山田孝研究部長
中村明彦 石川久美 佐藤俊樹
今村敦司(研究部)
川田基生 三小田博昭(研究委員)
福谷敏(教務部長)

7. 指導助言

- ・一方に総合人間科があり、もう一方に教科の学習がある。これらをつなげる位置づけを、選択プロジェクトと新教科群が担っているのかも少しはっきりさせた方がよい。教科教育の内容の見直しを新教科群や総合人間科の授業の中からできるのではないだろうか。
- ・中学の選択プロジェクトは観点がわかりやすいが、高校の新教科群は観点がわかりにくいのでは。教科を合わせて、何を生み出すかは難しいものがある。合科的に無理やり行うのは大変ではないか。
- ・テーマの副題について、中高一貫でどのような生徒を育てていくかという目標とビジョンがあり、それに向けたカリキュラムがあるべきである。
- ・学校文化と高度消費者文化の乖離がある。消費生活に関わる問題もどこかに入れては。
- ・大学入試の重しをはずせないが、これをどうするのか。大学側もこのような教育を受け入れる必要がある。附属で育てた生徒を学部で受け入れて、長い目で見た評価をしたい。
- ・今の生徒は、灰色の学校生活を送っているように思われる。特に高校受験を控えた中学校に一番しわ寄せがきている。それが、高校に入って解放されているのが現状である。中高一貫教育で、灰色の学校生活から解放されたと言えるような取り組みをしなくてはならない。
- ・盛りだくさんの研究であり、重なり合う部分を整理するべきである。選択教科は、教科で深く入るべきである。理論的に枠組みを作る必要もある。
- ・学校五日制をひかえて、土日を使うか考える時期である。土日を使う生活させるか。金曜日までの学習水準を、次の月曜日まで維持させるために、宿題を出すべきである。

8. 閉会の挨拶

(文責：山田 孝)

第2回運営指導委員会報告

平成13年11月17日(土) 9時40分～12時

於附属学校第一会議室

参加者 速水敏彦附属学校長 榊達雄教授

高木靖文教授 的場正美教授

早川操教授 大谷尚教授 吉田俊和教授

(以上教育学部)

文学部若尾祐司教授(以上名古屋大学)

京都学園大学小島秀夫教授(以上他大学)

1. 学校長挨拶

2. 運営指導委員及び本校関係者紹介

3. 授業見学

- ・ソーシャルライフー中学一年生 (2限目)
- ・選択プロジェクトー中学二年生・三年生 (2限目)
- ・総合人間科 ー高校各学年 (2限目)

4. 本年度の中等教育研究協議会について研究部長より

5. 指導助言

- ・大学院生が入って授業を行っているところは、丁寧に記録がとられている。ぜひ生徒の考えていること、生徒の頭の中のことも記録してほしい。
- ・久しぶりに授業研究を見た。大変感動した。授業そのものを発展研究していく上での枠組み、分析の方法をどうされるのか興味がある。選択プロジェクトの授業はおもしろい。時間があればもっと見てみたかった。先生方の得意な分野に生徒を引きつけて、学びをどう掘り下げていくのか。次のステップ、どういった知識体系をつくるのかこれからの広がりが大切である。
- ・ソーシャルライフの授業や選択プロジェクトの授業を見学して思ったことは、授業規模が小さい方がおもしろい。パソコンなどを使用した個々の技術を深化していくと、コミュニケーションが不足してくるのではないかと課題である。
- ・ソーシャルライフの授業は、最終的には学校の先生にやってもらう。ソーシャルライフの効果は、すぐにはでない。長い時間をかけて変化は生まれてくるもの。
- ・中等教育研究協議会では、途中の経過が見える資料を作っていただきたい。授業の協力者の方々の感想があるとよい。

6. 閉会の挨拶

(文責：山田 孝)